

転調で考えるな、Modeチェンジ(アクシスシステム)で考えろ！コードスケールもメジャー(maj.)からのズレorマイナー(min.)からのズレ、のどっちかで見ろ。

VII m7(b5)だけは「代理コードの仕組み」に登場しないので、独立した意味(サブドミナント機能)を持たない。――6thは平行調での代理、あとはザマミロ的に使う――
 ┌Natural Minor┐ ┌Harmonic Minor┐ ┌Melodic Minor┐ ┌Major┐ 十字アクシス or 転回形 or なんかのモードだと考える。
 平行調:代理(フォーク), 同主調:ブルース(交換)⇒よむる精神

S G7(b9)/B G7(9)/B // // // //

dim7で半音上に解決するのはぜんぶこれ⇒ VII dim7 [DSv] VII[♯] [DS7] VII[♯] ["] VII-7 Sm LydianのVII VII7 Sm IV7(Sm)の裏コード

D VIIfunc.Dim=V.h.m.p.5 [II m6/VII⇒サブドミナント] Gm7,9/Bb

T bVII7 ⇒ bVII7sus2,4 Mixo.b6のVII=Lyd.b7 bVII m7 D PhrygianのVII bVII M7 ⇒ bVIIM7sus2 FonB ①MixoLydianのVII MixoLydianのVII VImへのナポリ

T VI[♯] Tm VI-7 T Iの平行調の同主調 I7の代わりにVI7にすると更に大きさ感アップ 断じて転調では無い！ 大きさサウンド

S あくまでマイナーの基本はナチュラルマイナーだからマイナーの循環(I m7・VI m7(b5)・II m7(b5)・V7) ドイツのVI フランスのVI G7(b9)/Ab

bVI M7 Sm " 主音をよちって大きさに Major key⇒ I M7 VI△ Minor key⇒ I m7 bVI m ③AeolianのVI bVI69だな。結果bVII Lyd.になる

D V-7 Dm MixoLydianの V V7 D メジャー系に解決する□7→第1候補□mixo. 第2候補□Lyd b7 マイナー系に解決する□7→第1候補□H.M.P.5 第2候補□alt. その中間→第3候補□com.dim. Am6/F# VImをトニックと見たら90°

T sus4とゆーよりP4th Build メジャーコードに3rdはいらん⇒フローティング化 ジミヘンコード 表記はV7(#9)ってなるけど 本質はM3rdとm3rdの訛った同居 よってトニックでも使える

T #IV[♯] T LydianのIV #V7 (sub I 7) IVへ解決 #VIm (P.C.) I_#IVm_IVの中で So Fi Faの下降する半音階が登場する

S IV△はマイナーから見た場合サブドミナントメジャーって解釈になる、ドリアのIVだ⇒ Dor. Blues (IV7⇒bVI) ドリアのIV 平行調Melodic MinorのVI G7(b9,b13)/F IV-M7 Sm ③Minor Mode Blues Harmonic MajorのIV ファッケンコード！

D III-7 D III7 D V7の平行調の同主調

T bIII M7 Tm bIII aug M7 Tm bIII aug M7 " D7(b9)/Eb bIII dim 7 II-VをカタマリでDominantと考えた場合のSec.D

S II[♯] Sm " " " " IVの平行調の同主調 II/#IV-IVだとBassが半音進行でgood!

D □dim7が単一機能なのに対し、□augは3つの機能を表す II-VカタマリでDominant解釈の場合 Vへの解決を遅らせる為のV sus4=II m7

S II 7(b9)=#IV dim7はJ.S.バッハが多用了したSec.Dだ。 bII dim7-II m7って進行もおんなし理屈。 Harmonic Minorよりも導音のほーが古く、Smはバッハより古い。ごまされんなよ

D II 7(9,13)=V7(#9,b13)と同じなんでね。 bII 7 裏コード (sub V 7) bII M7 [Sm] PhrygianのII Phr. Blues bII Lyd.

T I-7 Tm I-M7 Tm I-M7 " IM7 T TonicDim. I dim 7 Iへの解決を遅らせる 為の I sus4と同じ解釈だからDim.Scale Sus4は半音下に解決/TonicDim.は半音上に解決

T I 7 T7 MixoLydianの I

コードを繋げてく場合
 ・中心音をDoと考えてbきせていくか、
 ・中心音をNaと考えて#きせていくか、
 I M7・bIII M7・bVI M7・bII M7のターンは I 以外全部Lyd.で弾くのが大吉
 古典和声の短調: ドリアのIV (dr.IV)、フランスのII (fr.II)、ナポリのII (np.II)、IV6の和音 (IV6)、終止にピカルディのIを使う。